

目 次

はじめに	
第1章 協約拘束範囲の縮小 ▶変化の起点	1
1 はじめに	1
2 労働協約システムの概要	6
協約当事者と部門(6) 労働協約の規制内容(10) 労働協約 の法的効力とデュアルシステム(13) 協約改定交渉(15)	
3 協約拘束範囲の縮小とそれをめぐる紛争	17
労働協約の範囲(17) 協約脱退・協約不加入の具体的ケース(20)	
4 労働協約システムの構造変化	26
労働協約の規制能力の減退(27) 労使紛争の個別事業所化(30) 横断的労働協約に対する「規律化」(32) 労働協約はカルテル か?(35)	
5 小括および本書の構想	38
第2章 協約規制の個別事業所化	43
▶2004年プフォルツハイム協定とIGメタル	
1 はじめに	43
2 プフォルツハイム協定の成立	46
ゲザムトメタルの要求—賃金補償を伴わない労働時間延長(46) ゲザムトメタルと連邦政府の攻勢(49) 対立する労使(50) 労働時間・賃金と雇用をめぐる論争(51) 妥結とプフォルツハ イム協定の内容(53)	
3 プフォルツハイム協定からジーマンス社補完協約まで	55
プフォルツハイム協定に対する当初の評価(55) ジーマンス社 補完協約(57)	
4 「コントロールされた分権化」の困難	62
「ダムが決壊」(62) IGメタルの「コントロール」—制度と実 際(65) 「静かな反乱」(68) 協約適用除外と労使関係(71)	

5	転轍の可能性	74
	協約適用除外の定着とその多様性・変化(74) 使用者にとって のリスク(76) 事業所レベルにおけるIGメタルの貫徹能力(78) IGメタルの交渉指針(80) 具体的な交渉ケース(81) 競争歪 曲(88)	
6	小 括	89
第3章	協約交渉の対立先鋭化 ▶ 2007/2008年小売業争議	95
1	はじめに	95
2	小売業の変容	100
	従業員と労使関係(100) 排除競争(101) 開店時間規制の緩 和問題(103)	
3	2007/2008年小売業争議の開始	105
	争議の経過(105) 埋めがたい対立(108) ストライキの展開 とスト破り(110)	
4	小売業争議の展開と妥結	114
	新しい争議戦術(114) レーヴェ暫定協約(117) 妥結へ(119)	
5	小 括	122
第4章	協約賃金の低水準化 ▶ NGGと法定最低賃金	129
1	はじめに	129
2	旅館・飲食業における低賃金と協約政策	133
	協約構造と賃金(133) 職場における権威的關係(135) NGG の困難(137)	
3	食肉産業における低賃金と協約政策	138
	「サービス提供の自由」(139) 食肉産業における東欧請負労働 者の流入(141) 流入の影響—解雇と賃金引き下げ圧力(142)	
4	NGGの法定最低賃金導入論—「協約自治」の壁	144
	NGGによる全国一律法定最低賃金の要求(144) 全国一律法定 最低賃金と部門別最低賃金(148) ミュンテフェリング構想— 「鎮痛剤」としての法定最低賃金(152)	
5	運動の展開と政治の変化	156
	最低賃金キャンペーンの開始(156) 最低賃金規制批判と反批	

判(158)	法定最低賃金と協約政策(162)	メルケル政権(第 1次～第3次)における法定最低賃金問題(166)	
6	小	括	182
補論	派遣労働と労働協約		189
	2002年派遣法改正と労働協約(189)	派遣労働者の実態(193)	
	「派遣労働の機能転換」と「排他的連帯」(194)	派遣労働の規 制へ(196)	
	おわりに：2013年協約交渉の意味するもの(199)		
引用・参考文献・記事・インタビュー			203
あとがき			217